

第2回「出前教学講座」担当者として沖縄教区へ出講

佐藤孝則

本年9月1日夜と2日午後、沖縄教区で第2回「出前教学講座『信仰に生きる』」が開催され、私は『「ふところ住まい」のエコロジー ～知識から知恵への実動～』と題して講演した。これは本年3月、同教区で開催された第1回「出前教学講座」(講師、深谷忠一所長)に続く2回目の開講で、天理教沖縄教区と天理大学おやさと研究所との共催事業として実施された。

1日夜は、教理をしっかり心におさめることの重要性を説明した。「世界は鏡」として世上に映し出された今日のさまざまな環境問題は、「心のほこり」が世上に反映された結果にほかならないこと。さらに、この世界がどのような世界で、今どのような状態にあるのかを改めて考えることは重要である、と「おふでさき」を引用して説明した。

また、『稿本 天理教教祖伝逸話篇』に紹介されている26「麻と絹と木綿の話」、45「心の皺を」、64「やんわり伸ばしたら」、110「魂は生き通し」、112「一に愛想」、124「鉋屑の紐」、132「おいしいと言うて」、138「物は大切に」の事例の中に、環境問題解決の重要なヒントがあることを紹介した。

2日午後、環境問題の解決には教理の中にヒントがあり、「知識」から「知恵」への実動を図ることが重要だと説明した。そして、教えに基づく環境保護活動の実践を、具体的事例を通して紹介した。そのさい、「おふでさき」三号40、135で論されている「この世は神のからだ」という教えをしっかり心におさめ、実動を伴う「知恵」として生かすことの重要性を強調した。加えて、「おさしづ」や『天理教教典』で論されている「一手一つ」の教理を十分に理解し、自ら勇み、周りを勇ませることが「陽気ぐらし」世界へ近づく道だと説明した。

「出前教学講座」申し込み受付

おやさと研究所では教区、教会などの単位で「出前教学講座」の依頼をお受けしています。詳細は、担当者佐藤孝則(tasato@sta.tenri-u.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

WCRP 日本委員会「平和教育円卓会議」で発題

金子 昭

9月27日、関西学院大学を会場にして、WCRP(世界宗教者平和会議)日本委員会による「平和教育の課題と展望に関する円卓会議『宗教を基盤とした教育現場からの実践報告』」が開催された。この円卓会議は完全クロードでの会議で、同委員会の主要メンバー及び宗教関係者32名が参加した。

会議は全体で5つのセッションに分かれ、最初の4つのセッションでそれぞれ各宗教からの発題とディスカッション、そして最後のセッションでは全体討議が行われた。

第1セッションはキリスト教からの発題で、奥本京子・大阪女学院大学教授が同大学の建学の理念と自ら担当する平和学の授業を紹介した。第2セッションでは、金子が「学校法人天理大学における信条教育—陽気ぐらしと平和—」というタイトル

の下に、天理教の教育機関の事例報告を行った。第3セッションは、新田均・皇学館大学教授が神道の立場から、愛国教育と平和教育との関係について発表した。第4セッションでは、渡邊了生・相愛大学講師が、仏教(浄土真宗)による平和の取り組みや自ら担当する「仏教と平和論」について報告した。まとめのセッションでは、山崎龍明・武蔵野大学名誉教授が総括を行った。

この円卓会議では、宗教間の意見交換や対話交流の意義について、また諸宗教が共有できる平和論構築のあり方について、多くのことを学ぶことができた。

「宗教と環境」シンポジウムで発題

金子 昭

10月25日、高野山大学を会場に、宗教・研究者エコイニシアティブ主催の第5回「宗教と環境」シンポジウムが開催された。テーマは、「変えようぐらし、守ろう地球—いのちを活かしあう新たな文明原理の探求と実践—」。

午前の部では、松長有慶・高野山真言宗管長が「環境問題について—仏教の視点から—」と題して基調講演を行った。午後の部では、パネル発表及びディスカッションが行われた。

パネルでは、北川宥智・真言宗高家寺住職/環境カウンセラーが「地球環境の根本問題解決に向け、宗教者にしかできないこと」、小原克博・同志社大学教授が「環境文化と物語—文明論的視点から見た宗教の役割」、そして金子が「いのちの危機とその回復—21世紀における生命への畏敬の倫理再考—」をそれぞれ発表した。その後、村田充八・阪南大学教授の司会進行でディスカッションが行われ、最後に大会宣言が採択された。

第275回研究報告会(10月25日)

『十一通りのつとめ』の音楽的考察

土井幸宏

本報告会では、「十一通りのつとめ」の音楽的な研究を報告する機会を頂いた。中山正善2代真柱『続ひとことはなし』に掲載されている「十一通りのつとめ」の中で、今日まで勤修されている「おびやづとめ」と「萌出のつとめ」の地方と鳴物の奏法を踏まえ、残り9通りのつとめに旋律が与えられるとすればどのようなものが考えられるかという推定復元について考察した。昭和22年まで勤められたという「雨乞ひつとめ」については、『けっこう源さん』のビデオ(昭和53年作品)を参考に、明治19年当時のつとめに付随するお神酒を蒔く儀礼についても検討した。

質疑応答では、地歌と鳴物との兼ね合いに関する質問や第一節第三節合一説に関する指摘があった。

おびや展開部(ABCDE型)

お - び や ず つ き り は や く た す け た ま へ  
[A] [B] [C] [D] [E]

萌出展開部(ABE型)

は え で き し っ か り た の む  
[A] [B] [C] [D] [E]

楽譜:「おびや」と「萌出のつとめ」の展開部。「萌出」(ABE)型=「みのり」、「肥」、「雨乞ひ」、「雨あづけのつとめ」に共通する旋律。